

講義科目 : 地方政治論 (53期生)	単位数 : 2
担当 : 川上 哲	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

本講義では日本の地方自治制度の仕組みや理論を中心に解説を行っていく。2000年以降、地方自治制度は大きく変容してきており、地方分権改革、市町村合併、圏域行政の推進など、地方自治制度がどのように変わりつつあるのか、その方向性も含めて授業を進めていく。

本講義の目標は受講生が地方自治制度に対する理解を深め、住民自治の担い手としての基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が地方自治に関する基本的な知識を習得することも目標とする。

授業計画

- 第1回 導入（ガイダンス）－講義概要及び評価方法について
- 第2回 地方自治体の首長
- 第3回 地方議会論
- 第4回 地方公務員論
- 第5回 選挙と住民投票
- 第6回 条例とその制定過程
- 第7回 地方自治体の組織と権能
- 第8回 大都市行政論
- 第9回 地方税財政制度
- 第10回 都制論－都区制度と都区財政調整制度
- 第11回 中央地方関係論
- 第12回 地方分権改革①－機関委任事務と自治事務
- 第13回 地方分権改革②－三位一体の改革と市町村合併
- 第14回 地方自治の今日的課題①－人口減少と東京一極集中
- 第15回 地方自治の今日的課題②－地方制度改革と地域活性化

教材・テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しない。レジメ・資料を使用して授業を進める。参考文献は授業の際に随時紹介する。また高等学校の政治・経済の教科書などを授業の前に復習しておくとう理解がより深まるのでお勧めしておく。

成績評価方法

出席と小課題及びレポートによって評価を行う。評価割合は出席点30%、小課題10%、レポート60%である。小課題は全体を通じて5回行い、授業時間の最後10分ほどで書いてもらう形式とする。なお特段の理由なく授業を1/3を超えて欠席した場合には単位を与えないので注意すること。

その他

日々、報道に接するよう心がけること。また疑問点は放置せず、その都度質問すること。また本講義とあわせて行政学、憲法、地方自治法などの履修を勧めたい。